

令和3年3月16日  
千葉県農林総合研究センター長

## キクノネハネオレバエの県内初確認

～幼虫がニンジンを加害することがあるが、登録農薬が無いため被害根の処分徹底を～

- 1 害虫名：キクノネハネオレバエ
- 2 学名：*Psila nigricornis* Meigen
- 3 作物名：ニンジン
- 4 発生確認の経緯及び海外・県外での発生状況
  - (1) 令和3年1月上旬に、安房地域のニンジン圃場で発見された本種と疑われる幼虫の診断依頼が、安房農業事務所を通じて千葉県農林総合研究センターにあったため、同センター職員が現地圃場において疑似幼虫を採集した。
  - (2) 採集した疑似幼虫を同センターで飼育し、羽化し成虫となった個体を3月上旬に農林水産省横浜植物防疫所に送付し、同所から帯広畜産大学名誉教授 岩佐光啓博士に同定を依頼したところ、令和3年3月15日にキクノネハネオレバエと同定された（図1）。
  - (3) 発生圃場における被害根は、廃棄処理を行っており、本種の周辺への拡大は認められていない。
  - (4) 本種は、イラン、北アメリカ、旧ソビエト連邦諸国、日本並びにヨーロッパに分布することが記録されている。もともと国内には生息していなかったが、昭和63年に兵庫県で初めて採集された。ニンジンへの加害は平成17年に愛知県で初めて確認され、その後、三重県（平成19年）、鳥取県（平成21年）、香川県（平成23年）及び静岡県（平成28年）で確認された。
- 5 特徴
  - (1) 形態  
終齢幼虫の体長は7mm程度で体色は黄色味を帯びる（図2）。成虫の体長は4mm程度で、体色は光沢のある黒緑色、頭は赤黄色、脚は黄色である。
  - (2) 生態及び被害  
国内既発例では、冬ニンジン収穫期の12月から1月にかけて幼虫による加害が確認されているが（図3）、詳しい生態は不明である。ヨーロッパではキクの根が本種の幼虫により加害されることが知られている。
- 6 防除対策  
被害根等の収穫残さは、速やかに圃場から持出し廃棄する。  
※令和3年3月現在、わが国ではニンジンをはじめ本種に対する登録農薬は無い。



図1 同定された成虫（頭部から尾部までの長さは約4mm）



図2 幼虫（体長約7mm）



図3 ニンジンへの加害例

（図2、図3は静岡県病害虫防除所原図）

（参考）

平成25年に近縁種でニンジンを加害するニンジンハネオレバエ *Psila nartshukae* (Shatakin)が県北西部において県内初確認されており、「平成25年度病害虫発生情報第3号 ニンジンハネオレバエの発生について（平成25年7月10日）」を発出した。

- ・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
[https://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180-1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)

